

# 民生福祉常任委員会記録

平成28年11月28日

【開催日】 平成28年11月28日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午前11時15分

【出席委員】

委員長	下瀬俊夫	副委員長	矢田松夫
委員	石田清廉	委員	岩本信子
委員	小野泰	委員	三浦英統
委員	吉永美子		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	尾山信義		
----	------	--	--

【執行部出席者】

病院局事務部長	堀川順生	病院局総務課長	岡原一恵
病院局総務課主幹	和氣康隆	病院局総務課主査兼経理係長	藤本義忠
病院局医事課長	山根和美		

【事務局出席者】

事務局長	中村聡	庶務調査係長	島津克則
------	-----	--------	------

## 1 所管事務調査 病院事業報告について

【議事の概要】

- ・平成28年8月、9月、10月の患者数、経営状況、資金繰り、経営会議概要の報告（詳細は別紙のとおり）
- ・患者数の動向（10月までの累計）  
入院1日平均172.8人（前年同月累計175.5人 予算180人）  
外来1日平均404.0人（前年同月累計428.3人 予算450人）  
病床稼働率80.4%（前年同月累計81.6% 予算83.7%）

【主な質疑】

下瀬俊夫委員長 患者数が昨年度と比べても落ち込んでいる原因は何か。

岡原病院局総務課長 患者数の減少が続いており、分析も行っているが、原因はつかみきれしていない。

岩本信子委員 個人病院からの紹介は増えているのか。

山根病院局医事課長 紹介率は8月23.52%、9月22.3%、10月27.06%となっている。

三浦英統委員 各診療科の患者数とその分析結果が分かる資料を出してもらいたい。

下瀬俊夫委員長 経営会議には各外来患者数の実績等の資料は出さないのか。

山根病院局医事課長 毎月の数値は経営会議には間に合わないので、決裁文書として事後に院内で回している。

下瀬俊夫委員長 それが出せるのか。

山根病院局医事課長 要求された資料は入院、外来について何科がどれくらい下がったかということの分析だと思っている。

岡原病院局総務課長 患者を持たない科もあるので、全ての科は難しいが、どのような状況か説明できるような資料を検討し、提出したい。

下瀬俊夫委員長 資料の比較が前年度比だが、予算が変わっているから比較にならない。予算比で資料を出さないと分からないと思う。

矢田松夫副委員長 患者数が減少している原因が分からないのなら、どういう議論をすればよいのか。

堀川病院局事務部長 今後、外部の専門的な知識を持った者の力を借りる必要性を感じている。

吉永美子委員 患者は減少しているが、費用が増えている原因は何か。

藤本病院局総務課主査兼経理係長 材料費については薬品費が増え、経費については新病院建設時に導入した医療機器の保証期間終了に伴う保守委託料や老朽化した医療機器の修繕費が昨年 비해増えている。また、減価償却費も増えている。

吉永美子委員 救急で当直医が専門外の患者を診て、受け入れた場合、専門科とスムーズな連携が取れているか。

堀川病院局事務部長 電話で確認をして、内容を聞いて、受け入れることも可能ではないかという話も出ている。受け入れた場合、そういう連携があるのでスムーズに対応できるのではないかとと思っている。

下瀬俊夫委員長 今の話は当番日以外のことを言っているのか。

堀川病院局事務部長 二次救急の当番日は内科系、外科系の医師が一人ずついる。今の話は二次救急当番日以外の日の救急対応である。

下瀬俊夫委員長 救急体制のために一般会計から基準内繰入しているが、常時医師二人体制を取るべきという繰り入れではないのか。

堀川病院局事務部長 365日二次救急を受けるという繰り出しではないと思う。

下瀬俊夫委員長 今の話は当番日以外も受け入れるという話ではなかったか。

堀川病院局事務部長 できる限り受け入れたいということである。

小野泰委員 病床稼働率や傾向分析について具体的に経営会議でどのような話をしているのか。

岡原病院局総務課長 病床稼働率については看護部と診療部との連携について協議している。

下瀬俊夫委員長 病床稼働率を見ても、予算の数字に届かない。なぜ放置しているのか。

岡原病院局総務課長 放置しているということはない。最近の傾向としては在院日数が短くなっているということがある。稼働率を上げるためだけに入院を延ばすということはないので、入院する人数を増やす対策をしていかなければならないと思っている。紹介、逆紹介を増やすよう努力していきたい。

小野泰委員 診療所にお願ひに行くということであったが、回り終えたのか。

岡原病院局総務課長 十分に回ってはいない。在宅療養・後方支援病院の指定を待っていたということもあるが、指定を受けられたので、回っていきこうと思っている。

石田清廉委員 病院には管理者や経理の担当はいるが、経営の担当がいないので、このような結果になっているのではないか。分析や調査についてもスピード感を持ってやってもらいたい。

堀川病院局事務部長 このような結果が出ているので、対応策についてスピード感を持って考えていきたい。

岩本信子委員 他の成功している病院を参考にして、市民病院の経営に生かすことはできないのか。

堀川病院局事務部長 他の事例を把握しているような専門的な業者、実績のある業者の意見を聞きたいと考えている。

下瀬俊夫委員長 外来で待っていると初めて職員に声を掛けられたと最近聞いた。そういう努力を始めたというのは経営会議での議論の反映だと思う。しかし、それは普通の病院ではやっていることであり、一般外来と予約外来の区別もやっている。委員会でも議論されていることであり、なかなか実践されないことが懸念材料である。事業報告についても客観的な数字の報告だが、今の問題点は何かを踏まえた報告、議論でなければ委員会でする意味はない。また、患者を第一に考えて経営をしないとほかの病院に逃げていくと思う。

吉永美子委員 内科における医師クラーク活用の協議はしているのか。

岡原病院局総務課長 内科の常勤医に医師クラークは付けていない。非常勤の医師についてはクラークが付いて対応している。常勤医については自分でカルテ等入力している。

下瀬俊夫委員長 そういう話は聞いていなかった。医師が自分で入力するから

頼っていないのではなく、常勤医には付けていないのか。

山根病院局医事課長 医師クランクは6名。そのうち3名は1年未満の新人で、内科の常勤医に聞いたところ自分が入力したほうが速いということもあり、今育てている状況である。

下瀬俊夫委員長 医師が入力するから遅くなるという話があり、そのための医師クランクという話であった。

山根病院局医事課長 科によっては医師クランクと医師が併用で電子カルテを入力し、効率的に時間も短縮されているケースもある。内科では常勤医が入力するほうが速いという判断で、常勤医は医師クランクを活用していない。非常勤の医師は活用している。

吉永美子委員 今までは、待ち時間短縮のために医師クランクを活用しなければという議論であった。

下瀬俊夫委員長 医師が自分で入力するというので、待ち時間が長くなるということはないのか。患者が予約して長時間待たされるということに対して相当な意見、不満が出ている。

和氣病院局総務課主幹 医師クランクは要望の多い科に配属している。内科は医師が入力するので医師クランクの要望がない状況である。委員会で内科の医師クランクの活用について説明しているが、まだそういう状況になっていないところである。

岩本信子委員 待ち時間の解消について、医師間で協議しているのか。

和氣病院局総務課主幹 医師で構成する診療部会の会議が毎月開催されているが、詳細な会議内容については不明である。

堀川病院局事務部長 病院長、副院長、診療部長は経営会議にも出ているので、話はしていると思う。

下瀬俊夫委員長 会議録を精査してもらって、12月議会でこの問題についてはやりたいと思う。

平成28年11月28日

民生福祉常任委員会委員長 下瀬俊夫